

氏 名	Duangajai LORTANAVANIT	所属先都市・国名
		Bangkok, Thailand
研究テーマ	The Reproduction of the Community in Touristic Space in Asia (アジアにおける観光地域のコミュニティの再生産)	
【所属】 Japanese Department, Liberal Arts, Thammasat University (タマサート大学 教養学部 日本語学科)		
【招聘期間】 2009年2月16日 ～ 2009年3月15日		
【京都大学におけるカウンターパート】 Counterpart Professor / Counterpart Graduate School: Motoji Matsuda / Graduate School of Letters		
【講演会のテーマ・タイトル】 <p>テーマ：フィールド調査班主催第2回全体研究会</p> <p>タイトル：自由化と資源収奪ー北タイの村におけるツーリズム活動を事例として</p> <p style="text-align: center;">Liberalization and Exploitation of Resources: A Case of Tourism Activities in a village of Northern Thailand</p> <p>日時：2009年2月18日（水）15:00 ～ 17:30</p> <p>場所：文学部会議室</p> <p>参加人数（概算）：50人以上</p> <p>主催者：GCOE・フィールド調査班（班長：秋津元輝准教授）</p>		
		

【エラスムス招聘の成果について 教育／研究面】

① 私の研究は、持続的な観光開発と **Empowerment Community** に関するものだ。これまで、北タイのメーホンソン県 (**Mae Hong Son**) の多少少数民族文化地域観光と日本の沖縄県の地域観光を拠点にして、国家、資本、住民組織、コミュニティの連携を模索しながら、対立、矛盾的關係を分析し、観光開発のために資源のマネジメントのそれぞれのアクターの **ideologies**、**power relations** を分析して研究を行った。2009年2月18日、15時よりフィールド調査班主催第2回全体研究会で、「自由化と資源収奪—北タイの村におけるツーリズム活動を事例として—」としてご報告した。総合討論では、司会から、今回の報告にあったキーワードとして「ツーリズム」「移動」に加え、親密圏・公共圏と関わる地域資源や、親密性の「商品化」、それに伴う「公共化」がフィールド調査班全体の視点となるのではないか、というコメントがありました。講演後、また研究者の方々と意見交換や質疑応対ができ、親密な交流ができた。

② 今回の研究は、「アジアにおける観光地域のコミュニティの再生産」というテーマで、京都の和菓子産業から見たコミュニティの再生産と観光京都を中心にして、研究調査を行った。まず文献調査を行い、(添付資料参照)、つづいて2005年度に京都と金沢との和菓子の比較研究をした同大学経済学部の岡田知弘教授にヒアリングをし、また京都市内の和菓子資料館見学、和菓子の店舗を視察した。京都の和菓子の現状を把握でき、また岡田教授のご指摘で、京都市・金沢市・高山市・松江市のそれぞれの地域の和菓子は特徴があるので調査する価値があると感じた。また田辺繁治教授のご指摘により、タイ地域の和菓子とコミュニティの再生産と比較するなら、徳島県の和菓子が特徴があるのでこの地域を検討する価値があるのではないかと考えた。その他研究期間中、理論的なコミュニティを想像する人類学的省察、**Community of Becoming** についてディスカッションをしました。

以上の文献とヒアリング調査のデータを踏まえて、観光京都と京都の和菓子産業の発展の歴史と現状について論文を書き、タイ国の日本研究者向けの **Journal** に掲載するつもりです。今後の比較研究課題として比較研究範囲、理論的観点および対象地に関しては今後松田素二教授と議論しながら、研究課題を検討する必要があると思います。

③ ②の研究テーマの他、タイ南部におけるムスリムについての日本人の考察 (**The Japanese Perspectives on Muslim in South Thailand** という主題をもって、文献を検索した。それをまとめ、帰国してから3月29日に東南アジアにおけるムスリム世界という主題の学会で発表した。(<http://textbooksproject.com/moslemworld2008.htm>)